

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

中学校で部活動を指導しています。

大会の時に、よく見る光景です。ラリー中、ベースライン付近に相手が打ったボールがアウトをしたときによく、「ラッキー」といって相手のコートに打ち返す場面をみます。元気なプレーでほほえましいとも思いますし、本人達に悪気はないのですが、時々、判定のきわどいボールについても自分でアウトだと判断してそのような行動を取ったとき、実はボールはアウトではなかったということがあります。相手は自分が打ったボールがアウトだったと思い打ち返すのをやめたところ、審判はアウトのコールをしていないので気まずそうに「今のボールはアウトではなかったのですが、打ち返さなかったので、打ち返さなかったペアの失ポイントです」という感じになり、質問されればそのように答えています。

本来、「ラッキー」といって打ち返す行為そのものを改善すべきとも思いますが、相手のボールがアウトの時に「ラッキー」という声を上げることは中学生の大会では一般的なように思えるので、それをすべてやめさせるということは難しいと思います。

以前「ラッキー」といって打ち返した方がインターフェア（相手が打つことを妨害した）で失ポイントとなると聞いたような気がしますが、曖昧です。どのように対応、判定すべきか、ご指導ください。

Answer

アンパイヤーがアウト・インの判定をしていない場合はプレーを続ける様にしましょう。なお、プレーヤーがインのボールを「ラッキー」とか「アウト」といって打ち返した場合、アンパイヤーの判断によっては注意の喚起の処置をとるか、インターフェア（相手が打つことを妨害した）を取るかのいずれかになりますので注意しましょう。

いつも中学生の部活動をご指導いただきありがとうございます。

この度のご質問について、質問者はとても素晴らしい答え方をされておられると思います。ラリーが続いていて、相手の打ったボールが自分の側のコートに入っているのに、「アウト」とか「ラッキー」とか叫んで、相手方がそれを信じてしまうような行為をするプレーヤーがいます。

以前「状況によってはインターフェアと判定する」と言う時がありましたが、場合によっては（例えば声やゼスチャーが控えめである）インターフェアを取る

ことが適当でないという事があり、状況によって判断することになった経緯があります。そこで、アンパイヤーにとって微妙な判断を求められる事になり、該当の行為の状況や程度によって「インターフェア」の判定をするか否かを決めなければならない事になっていますが、アンパイヤーは毅然たる態度で、インターフェアを取るか、注意の喚起を取るか、いずれかを決断することになると思います。これも勇気をもって判定をしなければならない中の一つです。

ところで、ご質問の状況は時折見る事ではありますが、インのボールをアウトであるかのごとく声をあげ

たり、ゼスチャーをする事は、是非やめてほしい事
でありますし、反面相手がそうしても、アンパイヤー
の判定がない場合は、惑わされずにプレーを続ける
ようにしましょう。

【関連規則】

競技規則第 35 条 (インプレーにおける失ポイント) (12)

審判規則第 19 条 (注意の喚起)

【ジュニア審判マニュアル】

競技規則について 11. ポイントを失うのはどんなときか?

(17) 明らかな打球妨害になったとき。



今のボールは明らかにインだ!
注意の喚起か、
インターフェアを取ろう



よっしゃ
ラッキー!